



## 1. 背景

広島県広島市に位置する旧市民球場跡地は、現在はイベントなどで利用される以外では活気のない場所になっている。広島カープの本拠地として使用され、全国高等学校野球選手権広島大会の決勝戦や都市対抗野球大会の広島県予選などのアマチュア大会の会場としても用いられていたこの敷地に再び市民が気軽に集まり、日常の一部になるよう計画する。

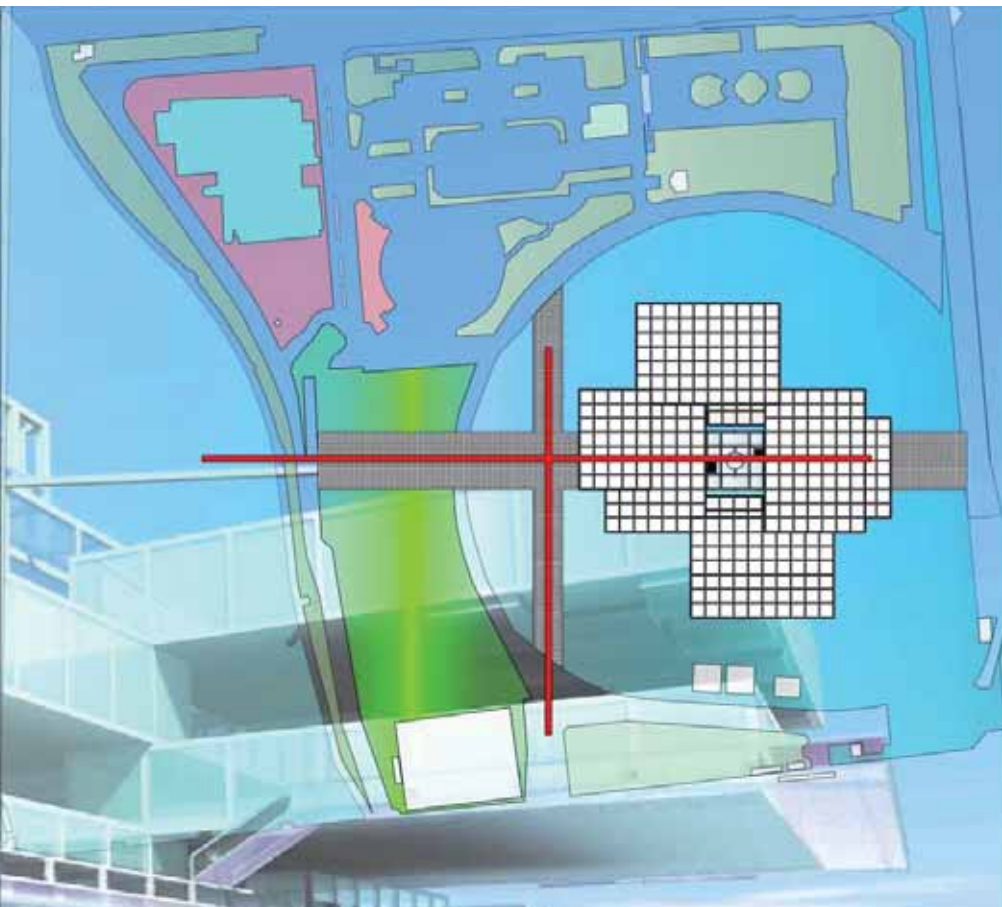
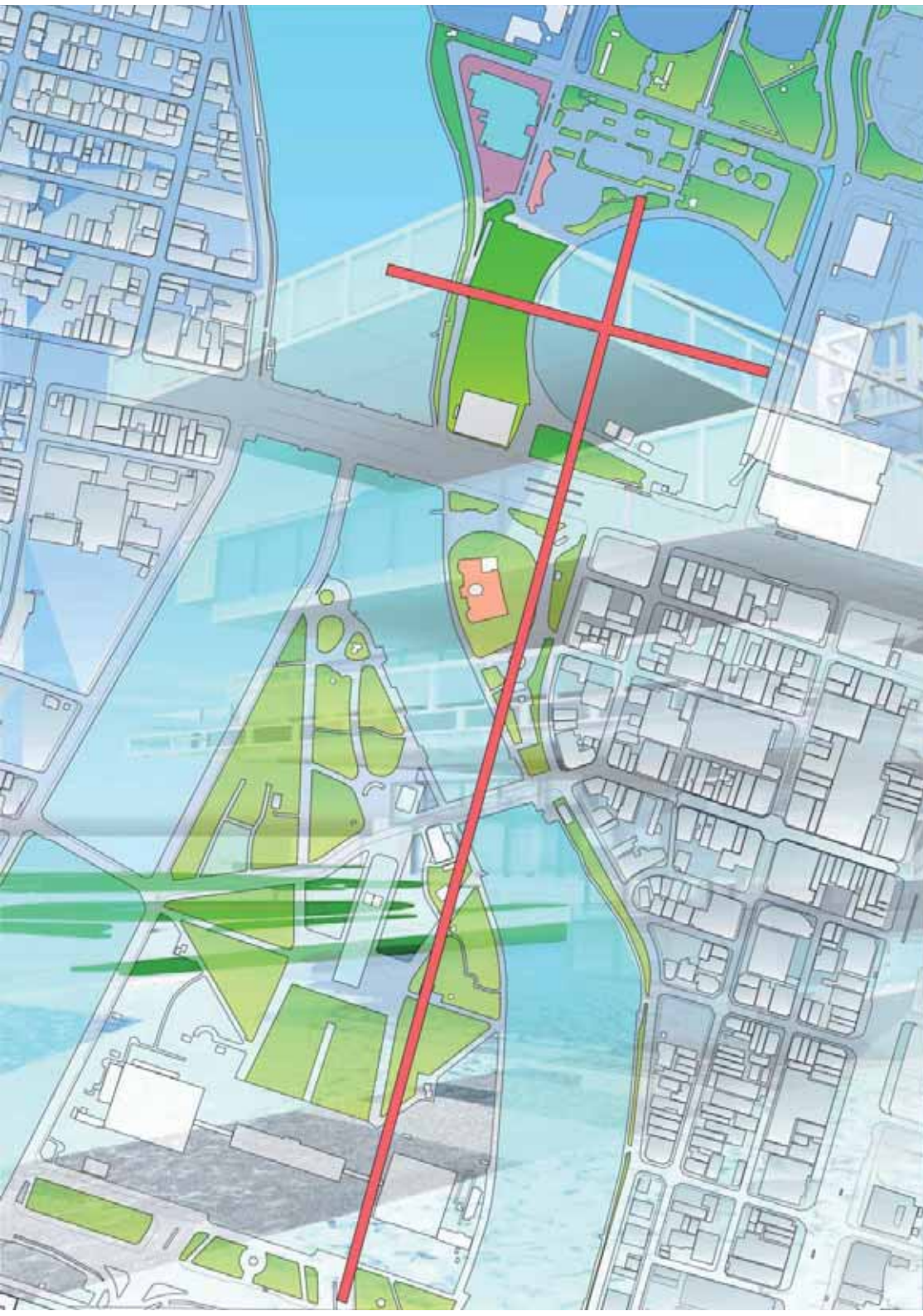
旧広島市民球場跡地の空間づくりのイメージ(平成27年1月)には、「平和記念公園とのつながりを考慮し、緑豊かなオープンスペースを中心とした空間とする」とともに、計画地全体で多様なイベントが開催できる空間とする」とされている。当敷地については、このイメージとともに水との関係が重要と考える。さらに、敷地周辺についても、人々が気軽に集まることができ、コミュニケーションを図ることができる場所が減少していることも考慮したい。

## 目的

当計画は、戦後の広島市の街の復興とその象徴性を具現化し、河川空間等の周辺環境と平和記念公園との繋がり考慮しつつ、生命の源である水との関係をデザイン化した施設を計画することを目的とする。また、親水公園の主機能として、銭湯をとり上げる。昔から、銭湯は人々の健康や疲労回復だけでなく日常的に集まれる場所として活用されてきた。現在は大型駐車場を必要とし、広い敷地の確保のためどうしても町の中心部から離れてしまい本来の銭湯の良さであった地域性やコミュニティ継承されにくく非日常の空間になりつつある。そこで、旧市民球場跡地に再び日常の一部になるような銭湯を計画する。

敷地周辺には交通アクセスが豊潤に整っているため、銭湯へは徒歩や自転車でのアクセスを基本としそれ以外は駐車場・駅やバス停からのアクセスとする。





## 2. テーマ・基本方針

戦後の復興と共に歩んできた旧球場の歴史を未来に継承していくため旧市民球場跡地の敷地の形はそのまま利用し、以下の基本方針を設定した。

また、戦後の広島市の街の復興とその象徴性の具現化として、計画敷地が平和記念公園・原爆ドームに近いことから平和や命の大切さのメッセージを表現する。

- 1) 平和記念公園や世界遺産である原爆ドームとのつながりを意識し、世界遺産周辺の品格ある雰囲気につながる空間とする
- 2) 建築家丹下健三設定した原爆ドームの軸、建物、川の繋がりを考慮し、軸に直交して建物の軸を配置する
- 3) 原爆直後の何もなかった焼けた野原だった広島市街地が、そこから発展していった象徴としての原点を表現する
- 4) 原子爆弾投下後、命を繋ぐのに必要だった水を求めて彷徨い続けた人々の思いの象徴としての水の表現を行う
- 5) 「水の都ひろしま」の新たな観光スポットになるような魅力的な水辺空間とする

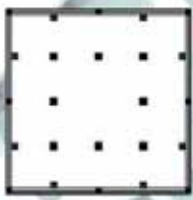
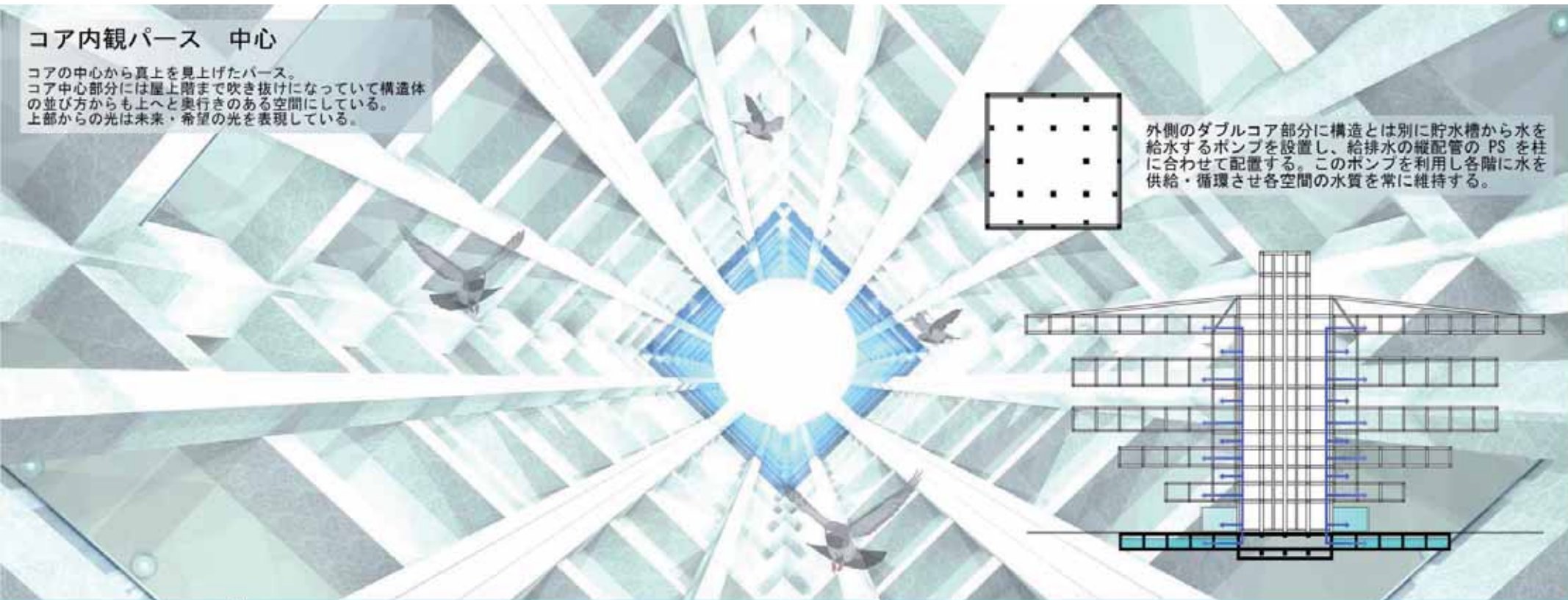
## 3. 計画に盛り込む主な機能

- 1) 周辺環境を楽しみながら水に親しみ、親水公園での時間や空間を共有し、コミュニケーションを促す。
- 2) コミュニティスペースや銭湯を利用後、気軽に思い思いに集まれる居場所としても活用。
- 3) オープンで、だれでも利用できる地域のギャラリーと、休憩の場としてラウンジ的機能を持たせる。
- 4) 街の接点となるコミュニティスペースを銭湯に持ち込む事で再び地元の人たちの日常的な空間とする。

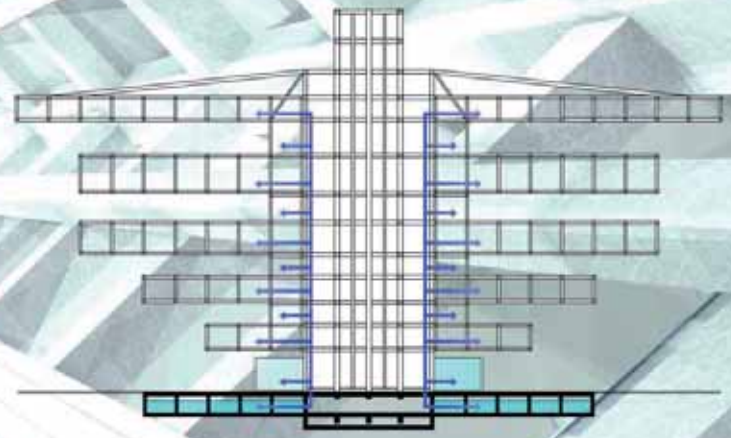


### コア内観パース 中心

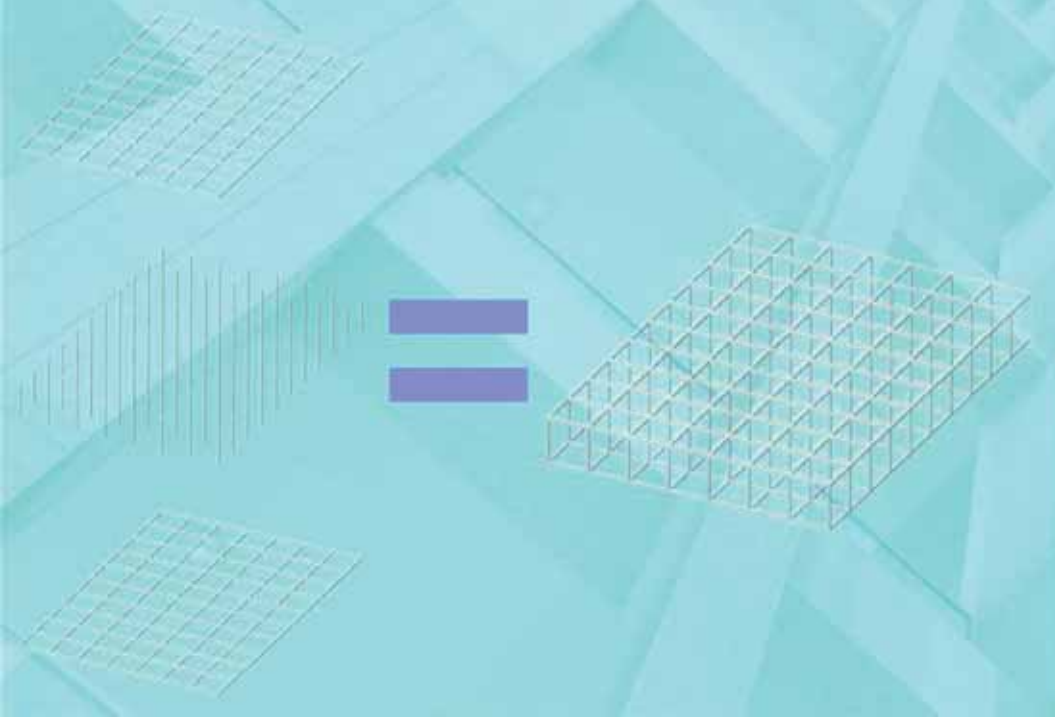
コアの中心から真上を見上げたパース。  
コア中心部分には屋上階まで吹き抜けになっていて構造体の並び方からも上へと奥行きのある空間にしている。  
上部からの光は未来・希望の光を表現している。



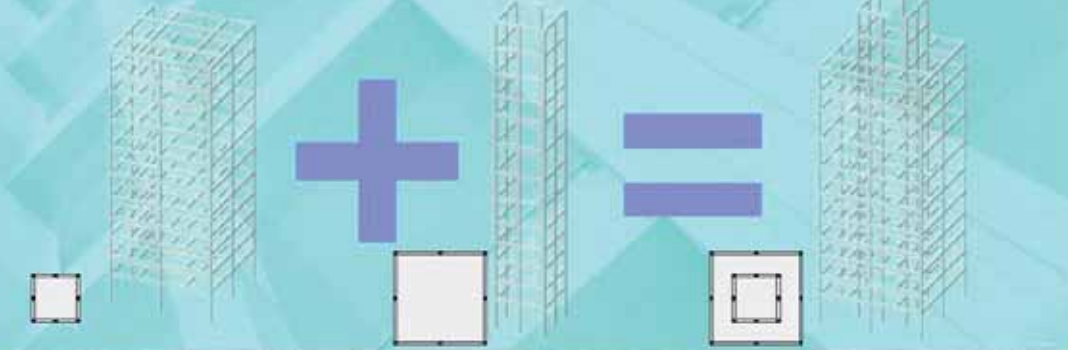
外側のダブルコア部分に構造とは別に貯水槽から水を給水するポンプを設置し、給排水の縦配管のPSを柱に合わせて配置する。このポンプを利用し各階に水を供給・循環させ各空間の水質を常に維持する。



### フレーム ダイアグラム



### コア ダイアグラム

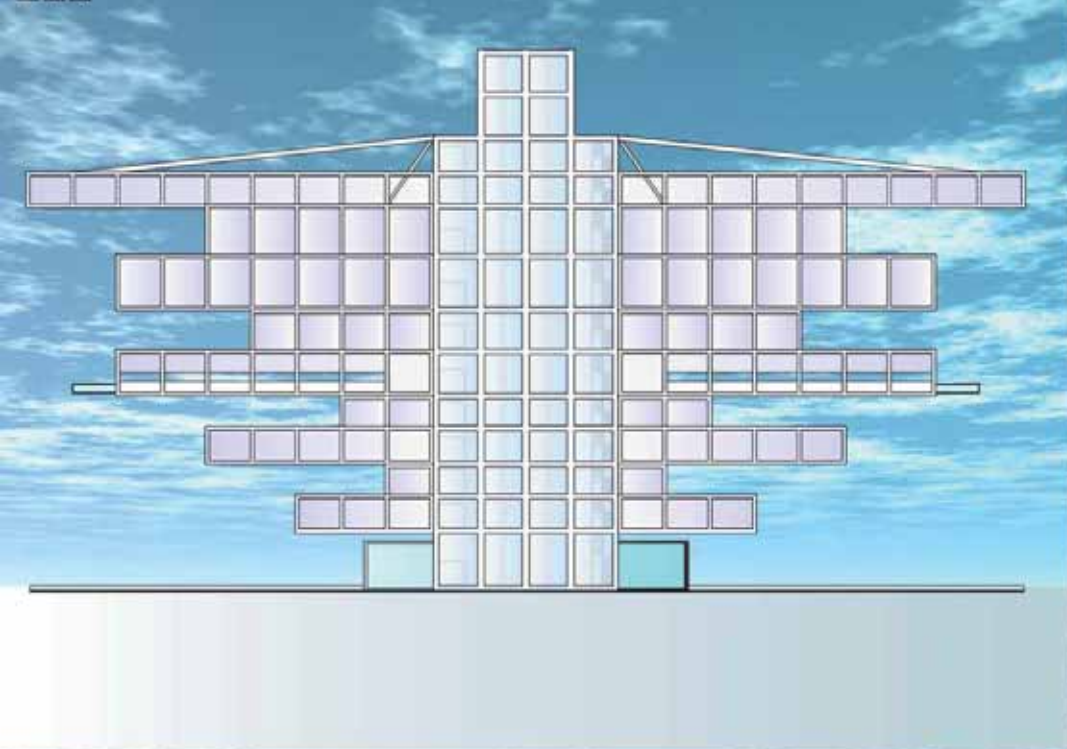


### 4. 建物構造

- 1) コア部分に8本の柱を設置し、各階の高さに合わせた梁でつなぐ。
- 2) コアの8本の柱を囲むように、さらに8本の柱と各階の高さに合わせた梁でつなぎ、強度を持たせる
- 3) 2つの構造体を合わせ、図のような構造体を作る。この構造体を建物中心に設置し、周りにフレームを取り付け建物を構成する。  
コアの内観は、内側の構造体の柱の外側に柱を設けるダブルフレームにより建物の構造を支える。外側構造体の9層目からフレーム4層目に部材をつなげ上部からも建物の構造を支える。
- 4) 内部空間の構造は、梁を直交させ格子状のフィーレンディールトラスを用いる。  
本計画のフレームはフィーレンディール橋のように構造体を伸ばす必要があると考えたため、このトラスを用いる。  
その内部にできた空間に各階の機能を計画する。  
この構造体が空間の基本フレームになり、ダブルフレームのコアを中心に積層する構成となる。
- 5) 内部に吹き抜けを設け、水の通り道としても活用する。



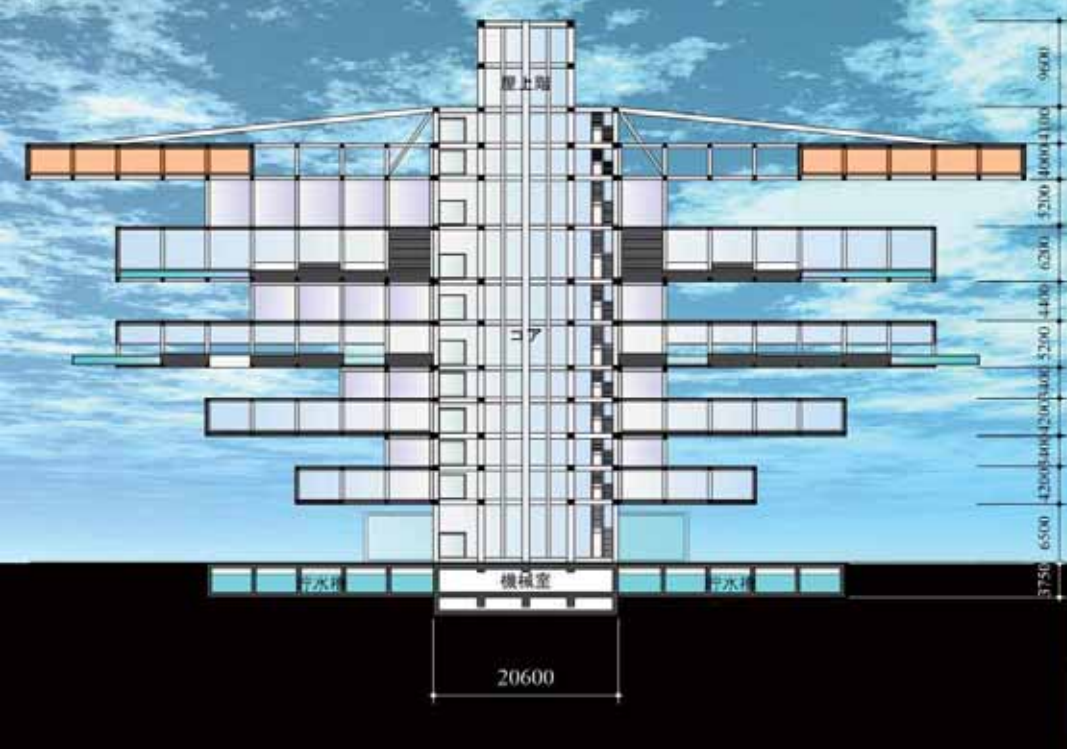
立面図



地上階 水面・水鏡

地上階はコア、通路を設置し敷地全域に水を張り建物が水に浮かんでいるような印象を与え水との関係を強調する。水に、建物が映り水の揺らぎとともに凛とした清々しさを感じることができる。この空間に小石などを投じてしまうと、水に映った建物が波紋と共に歪み景観が崩れてしまう。この現象は、平和の大切さと争いの愚かしさを表現している

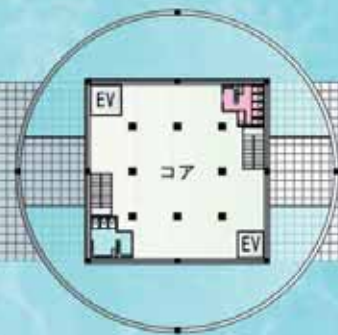
断面図



5. 建物構成

地上階平面図

- 地上階：敷地全域を水、建物をピロティにする。コアの周りを囲む水槽を設置芝生の部分に建物と川をつなぐ通路を設置
- 2・3階：エントランス・地域のギャラリー・コミュニティスペース
- 4・5階：食事・レストスペース・カフェ
- 6・7階：親水公園・プール
- 8・9階：銭湯
- 10階：サウナ
- 屋上階：コアの最上階から平和記念公園・原爆ドーム、などの周りの景色を眺めることのできる空間



建物全体：樹木のように下から上へ広がる外観とし中央吹き抜け部分は、水を上から流すことでどの階でも水の存在を感じられる空間とする。  
 コア：建物中心に設け、EV・階段を設置  
 貯水槽：建物の水や銭湯の部分に水を供給する役割と災害時などに使用  
 機械室：建物全体を管理





### 3階 コミュニティスペース

3階はコミュニティスペース・地域のギャラリーとしての機能があり、ガラスと木材で有機的な空間にしている。建物自体がグリッドに沿ったつくりで四角なのに対して木材で動線を誘導するようにデザインし、ガラス空間は人が滞在する場所となる。



### 3階 テラス

テラスを大階段につなげガラスで統一しクリアな印象を持たせる。約10mの高さから周囲の風景や、敷地全体に張った水に映る風景を眺めることができ、階を挟んで四方に空間が繋がっている。



### 2階 エントランス

2階はエントランス・コミュニティスペースとして計画し、この空間を清潔なイメージの白とガラスで統一してありクリアで開放的な印象を与える。一部の床をガラス張りにする事で地上階からの高さを感じることができる。また、中央に設置した大階段を上階に繋げることで、この空間に広い印象を与える役割を持たせる。



### 2階 大階段

空間の中心に大階段を設置しコア以外でも上階に繋げる。他にもこの階段には空間に広い印象を与える役割がある。





5階 食事スペース・カフェ

5階は食事スペースやカフェとして計画し、この空間では主に読書や談笑など自由に利用できる場所として、ガラスと木材で統一する。木材の部分は高さを与えて個人の滞在できる場所として、ガラスの部分は水としての役割があり木が水に浮いているようなイメージでデザインする。また、ガラスの下には水を通して水の存在を感じることができる。



5階 テラス

5階の食事スペース・カフェから4階の天井にできるこの空間にテラスを設け、外の空気を感じつつ開放的な空間に滞在できるように計画する。



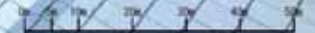
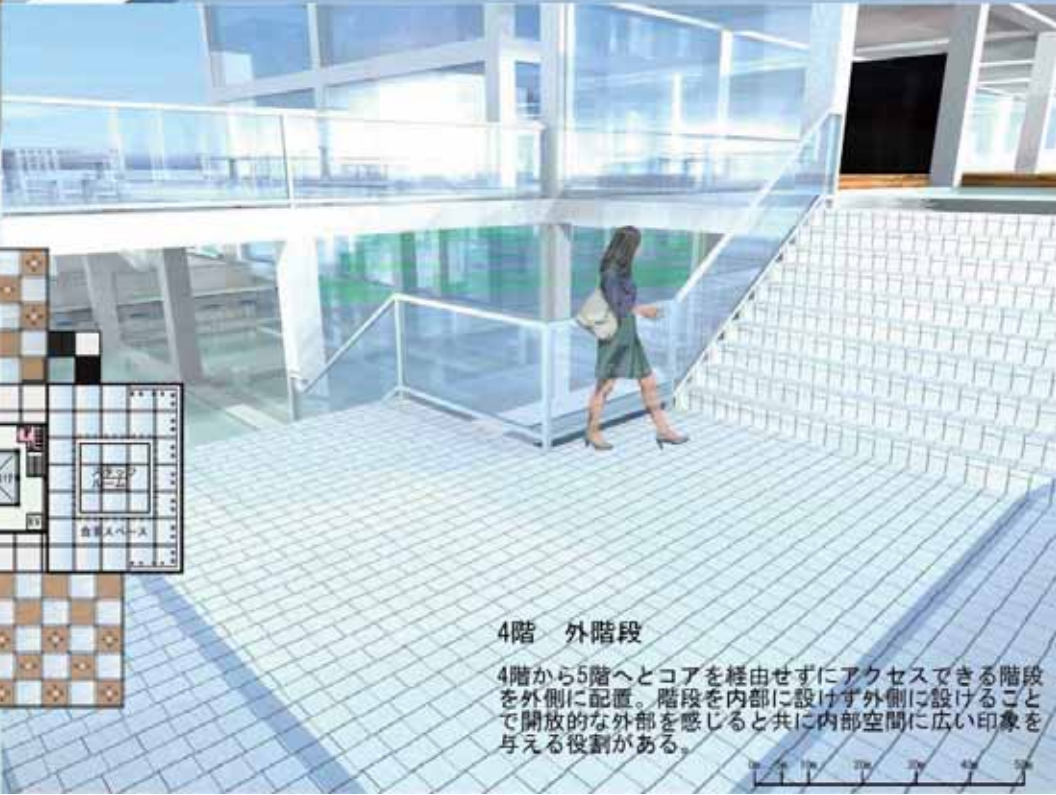
4階 食事スペース

4階は食事スペースとしての機能があり、床を一面に強化合わせガラスと、特に透明感の強い空間とする。ガラスの下には水を通して、水の存在を感じながら食事を行える空間としている。



4階 外階段

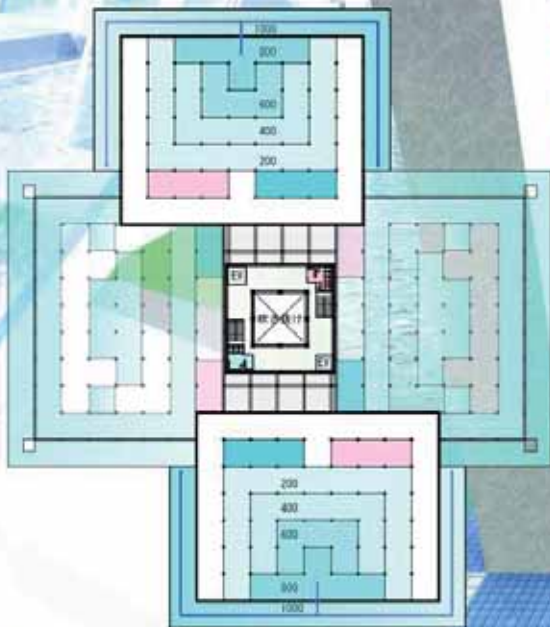
4階から5階へとコアを経由せずにアクセスできる階段を外側に配置。階段を内部に設けず外側に設けることで開放的な外部を感じると共に内部空間に広い印象を与える役割がある。





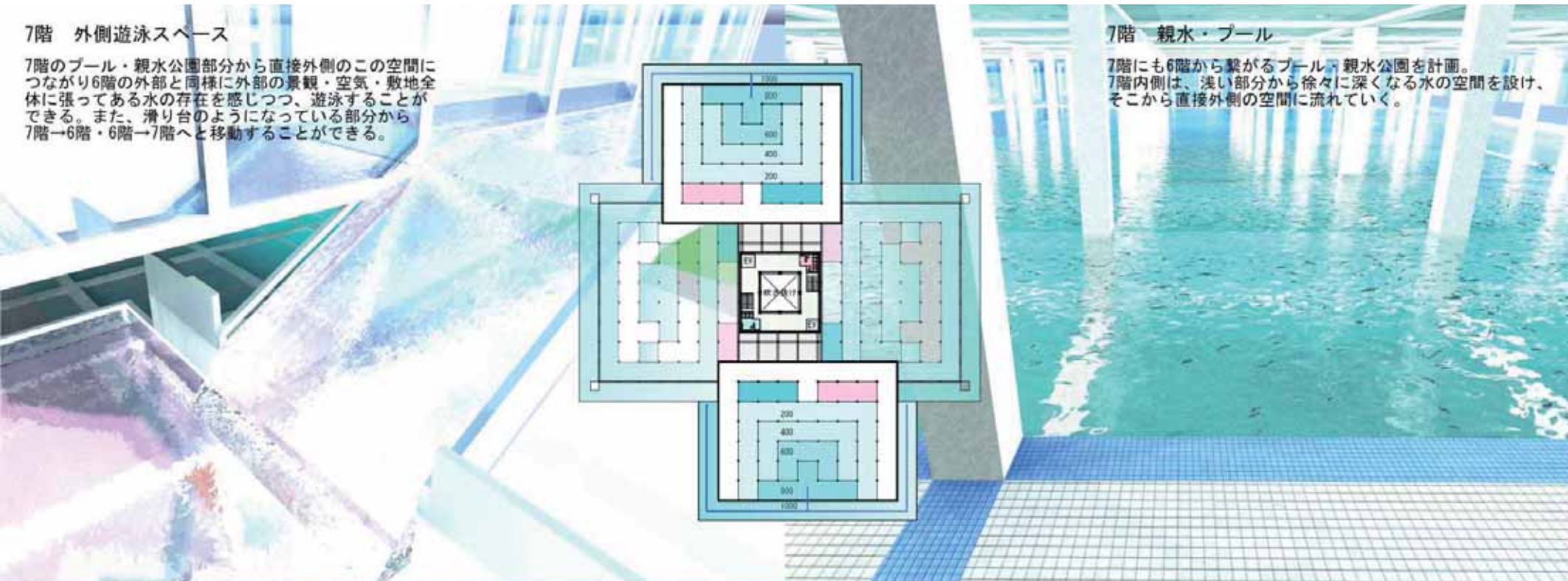
7階 外側遊泳スペース

7階のプール・親水公園部分から直接外側のこの空間につながり6階の外部と同様に外部の景観・空気・敷地全体に張ってある水の存在を感じつつ、遊泳することができる。また、滑り台のようにになっている部分から7階→6階・6階→7階へと移動することができる。



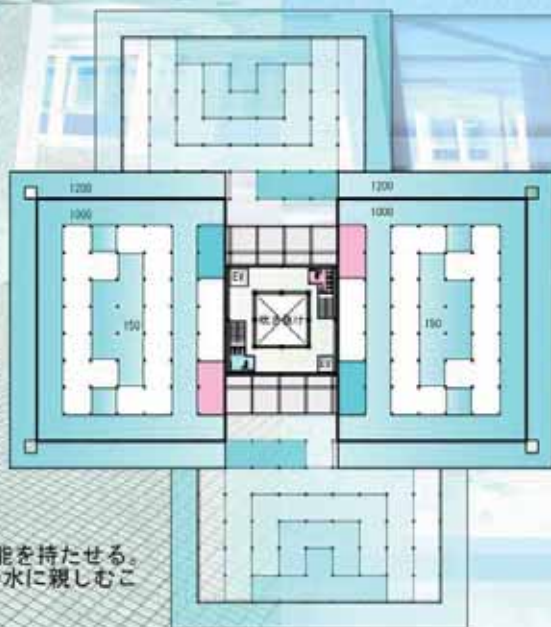
7階 親水・プール

7階にも6階から繋がるプール・親水公園を計画。7階内側は、浅い部分から徐々に深くなる水の空間を設け、そこから直接外側の空間に流れていく。



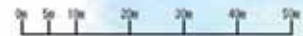
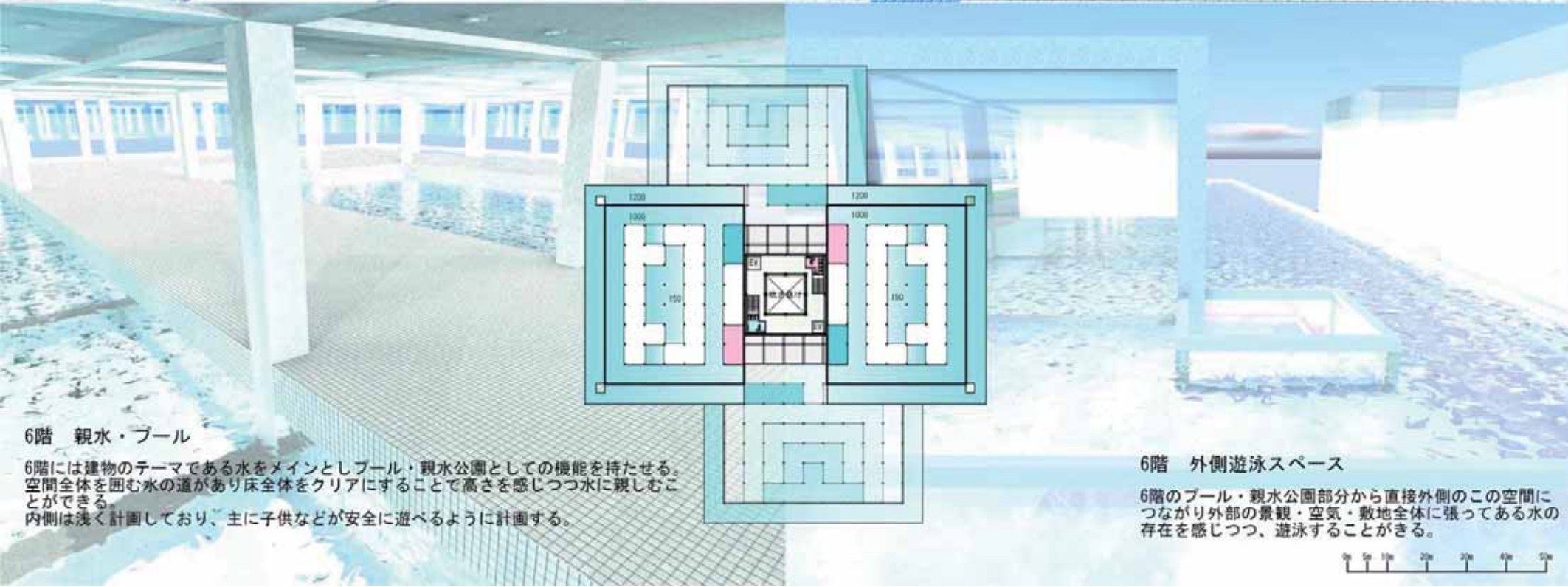
6階 親水・プール

6階には建物のテーマである水をメインとしプール・親水公園としての機能を持たせる。空間全体を囲む水の道があり床全体をクリアにすることで高さを感じつつ水に親しむことができる。内側は浅く計画しており、主に子供などが安全に遊べるように計画する。

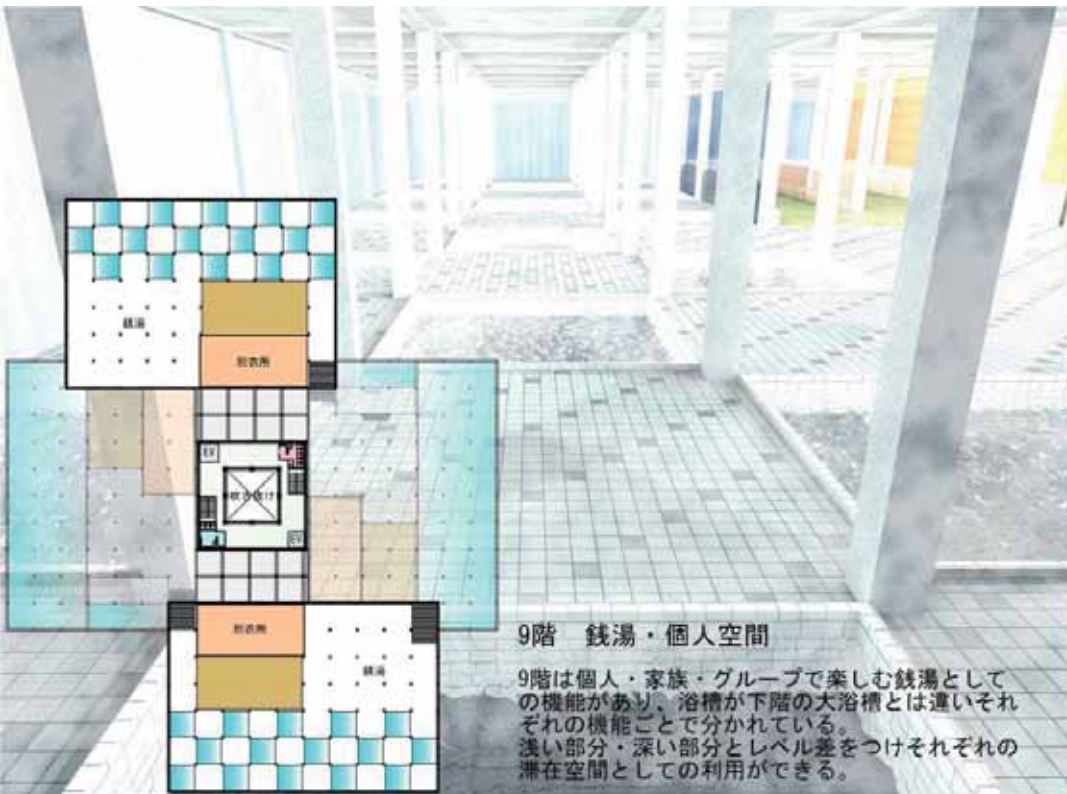


6階 外側遊泳スペース

6階のプール・親水公園部分から直接外側のこの空間につながり外部の景観・空気・敷地全体に張ってある水の存在を感じつつ、遊泳することができる。







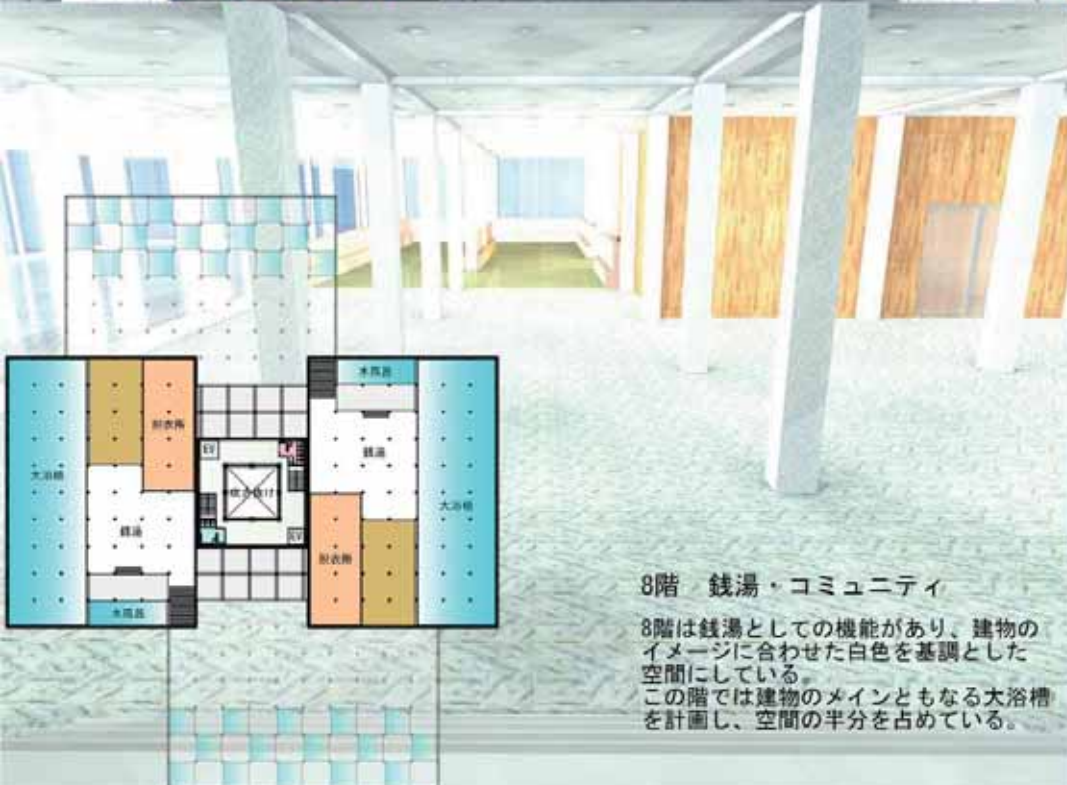
9階 銭湯・個人空間

9階は個人・家族・グループで楽しむ銭湯としての機能があり、浴槽が下階の大浴槽とは違いそれぞれの機能ごとで分かれている。浅い部分・深い部分とレベル差をつけそれぞれの滞在空間としての利用ができる。



10階 サウナ

10階は主にサウナとして計画し、下階から上がると庭をイメージした芝生を張り浴槽を設置する。サウナの中に入ると、右側には談笑などを行える機能を与え、左側には畳をイメージした和風の空間とし、さらに進むとテラスの機能のある空間に繋がる。



8階 銭湯・コミュニティ

8階は銭湯としての機能があり、建物のイメージに合わせた白色を基調とした空間にしている。この階では建物のメインともなる大浴槽を計画し、空間の半分を占めている。



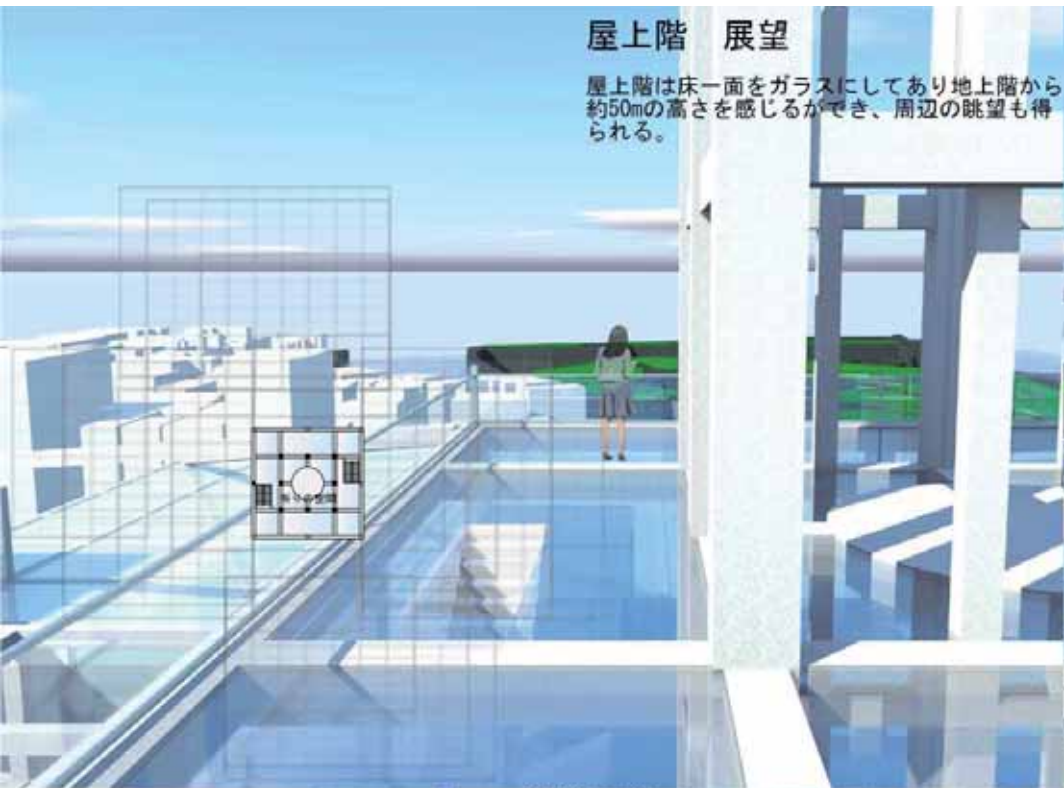
8階 大浴槽

空間の半分を占める大浴槽をこの階には設置。空間そのものに広い印象を与え、団体・地域の人々のコミュニケーションを図れる場所として計画する



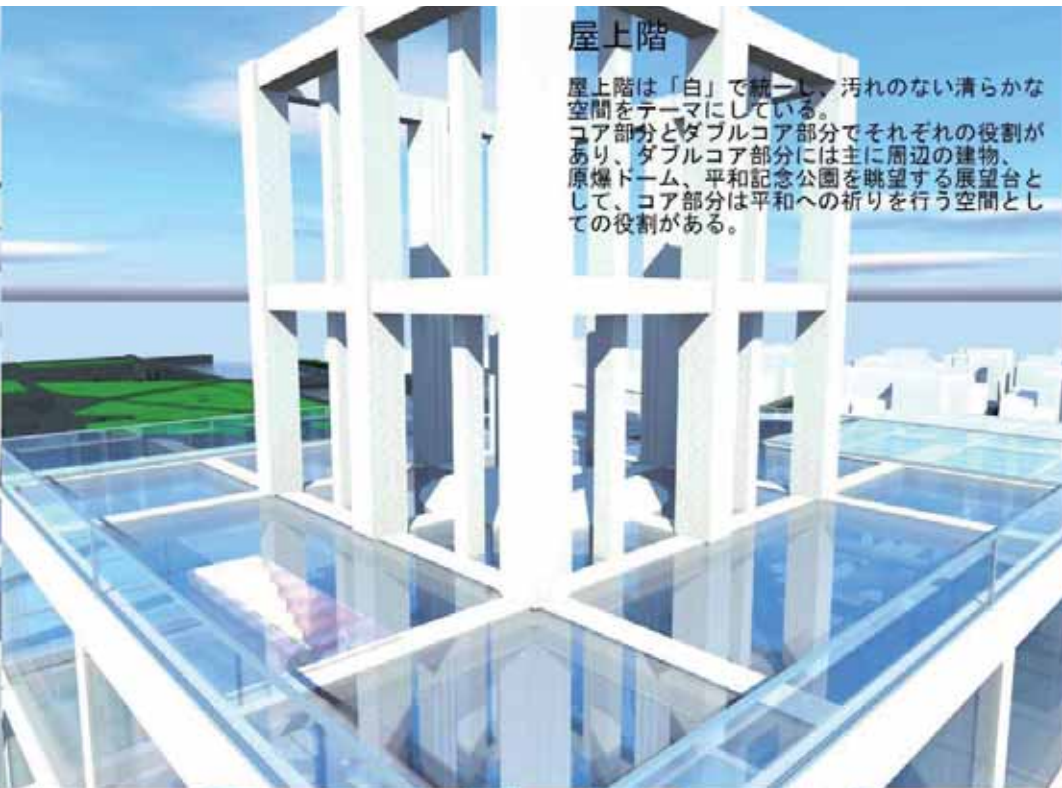
## 屋上階 展望

屋上階は床一面をガラスにしてあり地上階から約50mの高さを感じるができ、周辺の眺望も得られる。



## 屋上階

屋上階は「白」で統一し、汚れない清らかな空間をテーマにしている。コア部分とダブルコア部分でそれぞれの役割があり、ダブルコア部分には主に周辺の建物、原爆ドーム、平和記念公園を眺望する展望台として、コア部分は平和への祈りを行う空間としての役割がある。



## 各階の廊下

各階の廊下は外側コア部分に設け、EV・階段・トイレなどを設置。



## 屋上階 祈りの空間

屋上階中心にあるこの空間は「白」で統一してあり、汚れない清らかな空間をテーマにしている。白には「純粋」・「無垢」・「清潔」・「平和」などのイメージがあり、「清らか」や「希望」を感じさせる「白」の空間では、「平和」への祈りを行うことができる。





